

米国財務会計基準審議会（FASB） との第24回定期協議の概要

ASBJ 専門研究員 こにし けんたろう 小西 健太郎

1. はじめに

2018年8月1日及び2日の2日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第24回定期協議をノーワークで開催した。ASBJからは小野委員長、小賀坂副委員長、川西常勤委員のほか

スタッフが参加した。FASBからは、セッションに応じて Russell G. Golden 議長、James L. Kroeker 副議長、Christine A. Botosan 理事、Gary R. Buesser 理事、Marsha L. Hunt 理事及び R. Harold Schroeder 理事が参加し、Susan Cosper テクニカル・ディレクター及び担当スタッフも一部セッションに参加した。

2. 全体のスケジュール

日 時	議 題
初日	近況報告
	リース
	概念フレームワーク • 未履行契約
	企業結合 • のれん • 測定期間における暫定的な金額の修正の会計処理
	開示 • 複数事業の財務報告及びフルセットの財務諸表の範囲
	金融商品 • 公正価値が容易に算定できない持分証券 公正価値測定 • 公正価値ヒエラルキー

	会計基準と規制
	料金規制対象活動 <ul style="list-style-type: none"> • 米国会計基準と国際会計基準審議会（IASB）の新モデルの概括的な比較
2日目 午前	仮想通貨 <ul style="list-style-type: none"> • イニシャル・コイン・オファリング（ICO）の会計処理
	収益認識 <ul style="list-style-type: none"> • 顧客による重要な権利の行使の会計処理 • 契約資産と債権の区分
	資本の特徴を有する金融商品（FICE） <ul style="list-style-type: none"> • IASBのFICEプロジェクトに関連する分類及び表示の論点
	法人所得税 <ul style="list-style-type: none"> • 当期税金の表示

3. 議事概要

(1) 近況報告

FASB及びASBJの代表者の双方より近況報告がなされ、意見交換が行われた。

FASBの代表者からは、次の項目を中心に報告と議論がなされた。

- 最近公表された米国基準
- 米国市場におけるIFRS財務諸表の状況
- 現在の米国基準の開発アジェンダ
- FASBの状況（FASB理事の退任及びスタッフの減少など）
- 米国証券取引委員会（SEC）ほか関係当局の動向

ASBJの代表者からは、次の項目を中心に報告と議論がなされた。

- 日本において使用されている会計基準
- 現在の日本基準の開発アジェンダ
- 修正国際基準（JMIS）の開発
- リサーチ活動
- 関心のある国際的な論点
- 他の基準設定主体との協調

(2) リース

ASBJの代表者より、ASBJが「中期運営方針」において我が国における会計基準の改訂に向けた検討に着手するか否かの検討を行うとしているリースに関する会計基準に関連して、次の論点についてTopic 842「リース」及びIFRS第16号「リース」を踏まえたASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- 利用者にとっての有用性
- リース負債の取扱い
- 対応コスト（減損の取扱いを含む。）
- 貸手のための実務上の便法

(3) 概念フレームワーク

ASBJの代表者より、IASBが2018年3月に公表した「財務報告に関する概念フレームワーク」で扱われた未履行契約に関して、「未履行」の概念の必要性についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(4) 企業結合

ASBJの代表者より、企業結合に関連する次の論点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- のれん
のれんについては、「のれんが何を表しているのか」という点を踏まえ、のれんの事後の会計処理と償却期間について議論が行われた。
- 測定期間における暫定的な金額の修正の会計処理
企業結合における暫定的な金額を測定期間に修正した場合の会計処理について、米国基準における取扱いが簡素化の一環として変更された点を踏まえ、その経緯や変更後のコスト及び便益の変化などについて情報交換がなされた。

(5) 開示

ASBJの代表者より、FASB及びIASBがそれぞれ別個に検討している損益計算書の構成の改善に関するプロジェクトに関連して、次の論点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- 連結財務諸表とセグメント情報の関係
- すべての企業に適用可能な損益計算書の構成
- フルセットの財務諸表の範囲
 - ▶ キャッシュ・フロー計算書
 - ▶ 持分変動計算書

(6) 金融商品及び公正価値測定

ASBJの代表者より、ASBJが「中期運営方針」において我が国における会計基準の改訂に向けた検討に着手するか否かの検討を行うとしている金融商品及び公正価値測定に関する会計基準に関連して、次の論点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- 金融商品
 - ▶ 容易に公正価値が決定できない持分証券の事後測定
 - ▶ 「容易に公正価値が決定できない」の範囲
- 公正価値測定

▶ 財政状態計算書において公正価値で測定されている資産及び負債に係る公正価値ヒエラルキーのレベル1及びレベル2の区分と開示

▶ 財政状態計算書において公正価値で測定されていないものの、公正価値が開示されている資産及び負債に係る公正価値ヒエラルキーのレベルの開示

(7) 会計基準と規制

ASBJの代表者より、会計基準と規制との関係に関連して、次の論点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- 法域ごとに規制環境が異なる中で国際的な会計基準における単一セットを達成するためのアプローチ
- 基準設定主体により公表される「規範性のないガイダンス」の位置付け

(8) 料金規制対象活動

ASBJの代表者より、料金規制対象活動に関連して、米国会計基準とIASBが開発中の新モデルの主要な相違点の分析と、いずれのモデルが目的適合性のある情報を提供するののかという点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(9) 仮想通貨

ASBJの代表者より、ASBJが2018年3月に公表した実務対応報告第38号「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」を公表し、自己（自己の関係会社を含む。）の発行した資金決済法に規定する仮想通貨を範囲から除いたことに関連して、イニシャル・コイン・オファリング（ICO）による入金額をどのように会計処理すべきかという点について、会計単位及び不等価交換の視点も踏まえたASBJスタッフの考察が示され、議論が行

われた。

(10) 収益認識

ASBJの代表者より、ASBJが2018年3月に公表した企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」に関連して、次の論点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- 顧客が現金とポイントを併用して決済した場合の会計処理
- 契約資産と債権を区分する意義

(11) 資本の特徴を有する金融商品（FICE）

ASBJの代表者より、IASBが2018年6月に公表したディスカッション・ペーパー「資本の特徴を有する金融商品」に関連して、次の論点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- ワラントの分類
- 資本性金融商品の間での収益と費用の割当て
- 先渡買戻契約の総額表示

(12) 法人所得税

ASBJの代表者より、日本基準における税効果会計及び当期税金に関する会計基準及び適用指針の改正に関連して、連結納税加入時の時価評価益に係る当期税金の会計処理についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

4. 次回の予定

次回の定期協議は、2019年第1四半期に東京で開催することが予定されている。